



アジアナンバーワンの
ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム

株式会社バイキューブ

成長可能性に関する資料

会社概要

間下直晃が慶應義塾大学在学中に起業し、慶應義塾が初めて出資した会社

| | |
|---------------------|--|
| 会社名 | 株式会社ブイキューブ |
| 設立 | 創業1998年10月16日 |
| 決算期 | 12月 |
| 純資産合計（連結） | 1,228,563千円（2013年9月末現在） |
| 従業員数（連結） | 199人（2013年10月末。臨時雇は含まない） |
| 拠点展開国 | 日本・米国・シンガポール・中国・マレーシア・ インドネシア |
| 主な株主 （2013年10月末） | 間下直晃、役員、社員持株会 インテルキャピタル、グロービスキャピタル リクルートインキュベーションパートナーズ 株式会社ミライト、MUFGベンチャーキャピタル プレミア・グローバル・サービスズ 学校法人慶應義塾 |

ブイキューブのミッション

アジアナンバーワンの ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム

ビジュアルコミュニケーションとは？

離れた場所を映像と音声で結び、今まで移動して会わないとできなかったコミュニケーションをインターネットを通じて実現します。

コミュニケーションプラットフォーム？

「いつでも」「どこでも」「だれでも」を実現する為の環境が、世界中に当社が展開するクラウド環境で実現されます。あらゆるビジネスのプラットフォームを目指します。

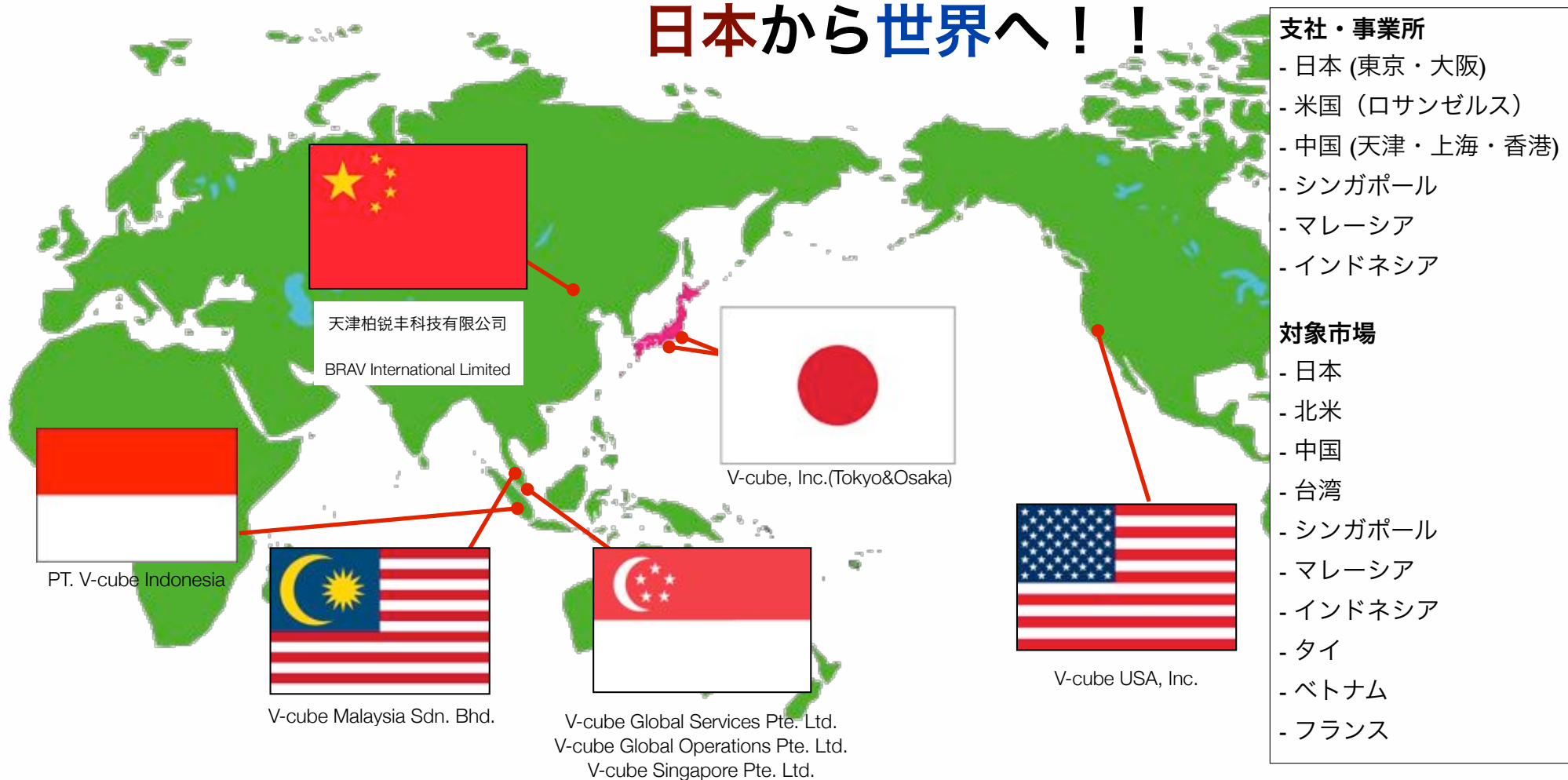
アジアナンバーワン！！

今後成長が著しいアジアのマーケットで、アジアで最も使いやすいサービスを、欧米の押しつけ的サービスではなく、アジアの中心である日本から広げていきます。

バイキューブグループのグローバル展開

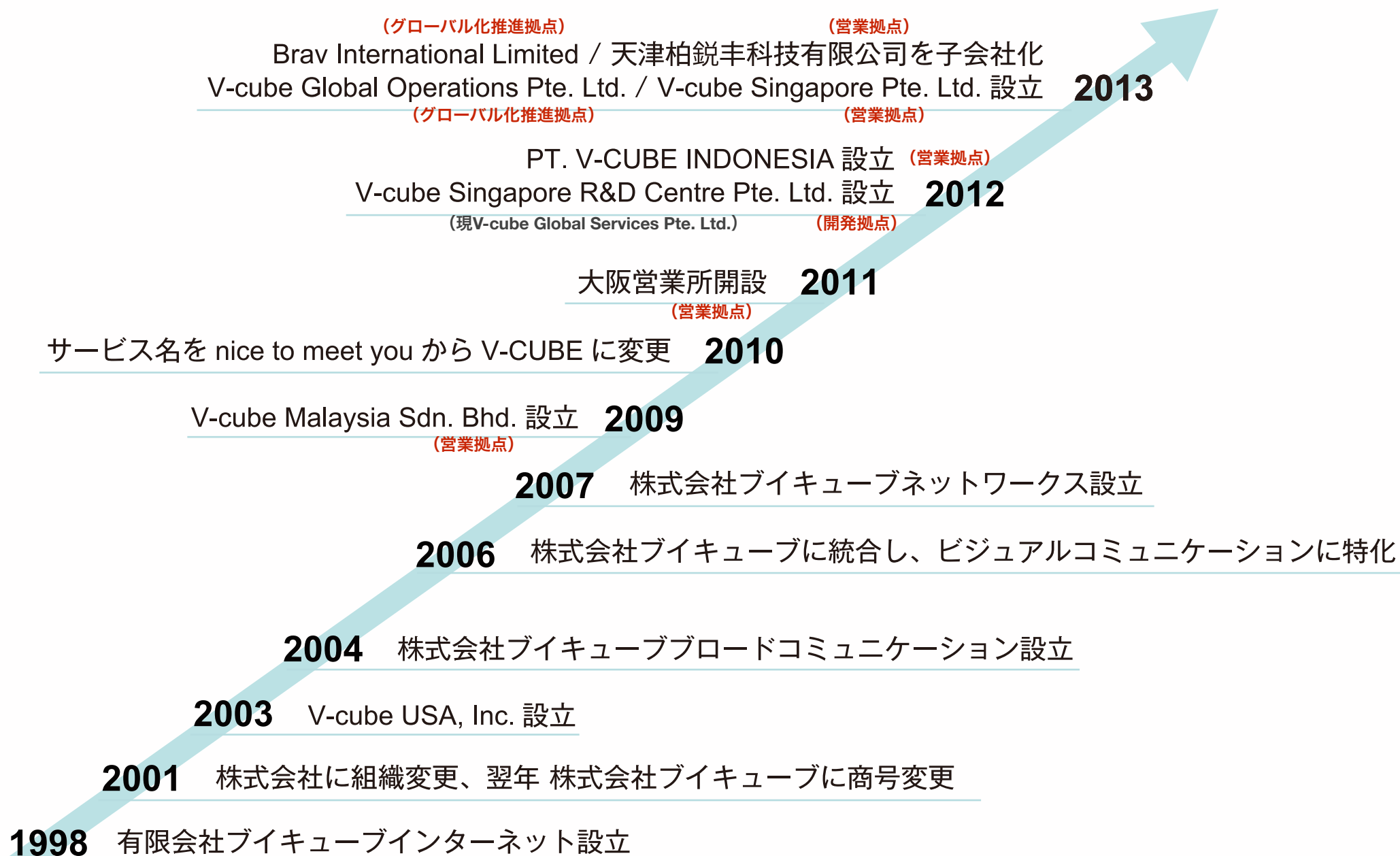
10カ国にサービスを提供し、アジアを中心としたグローバル化に挑戦

日本から世界へ！！



- 支社・事業所**
- 日本 (東京・大阪)
 - 米国 (ロサンゼルス)
 - 中国 (天津・上海・香港)
 - シンガポール
 - マレーシア
 - インドネシア
- 対象市場**
- 日本
 - 北米
 - 中国
 - 台湾
 - シンガポール
 - マレーシア
 - インドネシア
 - タイ
 - ベトナム
 - フランス

バイキューブグループ沿革



会社概要 - マネジメントチーム -



代表取締役社長
間下 直晃

1977年 東京生まれ
1998年 当社設立
2002年 慶應義塾大学大学院修了



取締役技術本部長
亀崎 洋介

2002年 (株)ブイキューブインターネット入社
2003年 Web会議の原型を開発
2007年 当社執行役員就任
2012年 当社取締役就任



代表取締役副社長
高田 雅也

2001年 (株)ブイキューブインターネット
取締役就任
2002年 慶應義塾大学大学院修了
2006年 当社取締役副社長就任
2013年 当社代表取締役副社長就任



社外取締役
小宮山 宏

(株)三菱総合研究所理事長
元東京大学総長



取締役営業本部長
森田 繁

2003年 トレンドマイクロ(株)入社
2007年 (株)サイタスマネジメント
取締役副社長就任
2010年 当社入社、執行役員就任
2011年 当社取締役就任



社外取締役
村上 憲郎

(株)村上憲郎事務所 代表取締役社長
(株)エナリス 社外取締役
元Google, Inc. 副社長
兼 グーグル(株) 代表取締役社長

上場申請理由

**自己資本の充実
更なる投資による国内外での成長加速**

**信用力・知名度向上による、
国内外のビジネス展開の促進、人材の確保**

**インフラ・プラットフォーム企業としての
公共性の担保**

事業概要 - V-CUBEサービス ラインナップ -

- 7つの基本ラインナップを、各ユーザのニーズに合わせて月額課金で販売



V-CUBE ミーティング ECOメーター

会議の「コスト削減」が「見える」

業界シェアNo.1の実績。当然、選ばれる理由があります。(注)
※株式会社シード・プランニング「2013 ビデオ&オーディオコミュニケーションの最新市場動向」

誰でもカンタンに招待、参加できるWeb会議システム。
1枚のインターフェース上に多彩な機能が充実。



V-CUBE ドキュメント

情報の「共有」が「見える」

資料を見る、資料に書き込む。ペーパーレスで会議改革。
iPad、Androidなどのタブレットで資料を共有。
直観的な操作で、拡大縮小も自由自在。



V-CUBE セミナー

セミナー参加者の「本音」が「見える」

10,000拠点に、同時配信。
双方向性が高いから臨場感あるセミナーを実現します。

国内最大規模の10,000拠点まで
同時配信可能な資料同期型セミナー。



V-CUBE ボイス

クリアな音声だから「相手の表情」も「見える」

「いつでも、どこでも、だれでも」、クリアな音声での電話会議を実現します。

ネットが繋がらなくても大丈夫。
電話回線を利用して、安定した音声コミュニケーションを提供。



V-CUBE セールス&サポート ECOメーター

サポートの「安心」が「見える」

1対1のあらゆるシーンで、密なコミュニケーションを実現します。

Face to Faceで密なコミュニケーションが
実現できる、セールス&サポートツール。



V-CUBE ビデオ

動画配信の「カンタン運用」が「見える」

動画のアップロードからライブ配信まで、難しい操作は必要ありません。

動画変換&投稿から、ライブ配信まで
幅広く対応できる動画配信ツール。



V-CUBE ポータル

コンテンツと受講者の「まとめて管理」が「見える」

V-CUBE のコンテンツを一元管理。多彩な機能でeラーニングにも対応。

V-CUBE で
作成したコンテンツの配信・管理システム。

V-CUBE ミーティング

インタフェースイメージ

少人数（5拠点以下で利用）

The screenshot shows a V-CUBE meeting interface with the following features highlighted:

- 共有メモ帳** (Shared Memo Pad): Located at the top of the interface.
- オーディエンス機能** (Audience Function): Located at the top of the interface.
- PC画面共有** (PC Screen Sharing): Located at the top of the interface.
- 録画ボタン** (Recording Button): Located at the top of the interface.
- 参加者** (Participant): Points to the main video feed of a participant.
- ファイルの転送機能** (File Transfer Function): Points to the file transfer area below the main video feed.
- テキストチャット** (Text Chat): Points to the chat window below the file transfer area.
- 参加者** (Participant): Points to the bottom row of video feeds.
- サジェスト機能** (Suggest Function): Points to the bottom control bar.
- 会議室内招待** (Meeting Room Invitation): Points to the top right toolbar.
- ホワイトボード** (Whiteboard): Points to the central whiteboard area.
- 動画配信機能** (Video Distribution Function): Points to the bottom right toolbar.
- ホワイトボード用ツール** (Whiteboard Tools): Points to the bottom right toolbar.
- 表示言語切り替え** (Display Language Switch): Points to the language selection dropdown at the bottom right.

The central whiteboard displays a line graph titled "カスタマー問い合わせ件数推移" (Customer Inquiry Case Trend) with data points: 505, 533, 571, 594, 526, 574, 630. Annotations include: "2012年3月 権限のご案内セミナー" (March 2012, Permission Guide Seminar), "2012年2月 2拠点のセミナー開催に際してご利用のお客様向けセミナー" (February 2012, Seminar for customers at 2 sites), and "2012年12月 権限のご案内セミナー2回目" (December 2012, 2nd Permission Guide Seminar).

※1 「動画配信機能」はホワイトボードと切替です。
 ※2 「動画配信機能」はオプション契約時に表示されます。

VV V-CUBE ミーティング

一般的な使い方



会議室に集まって参加

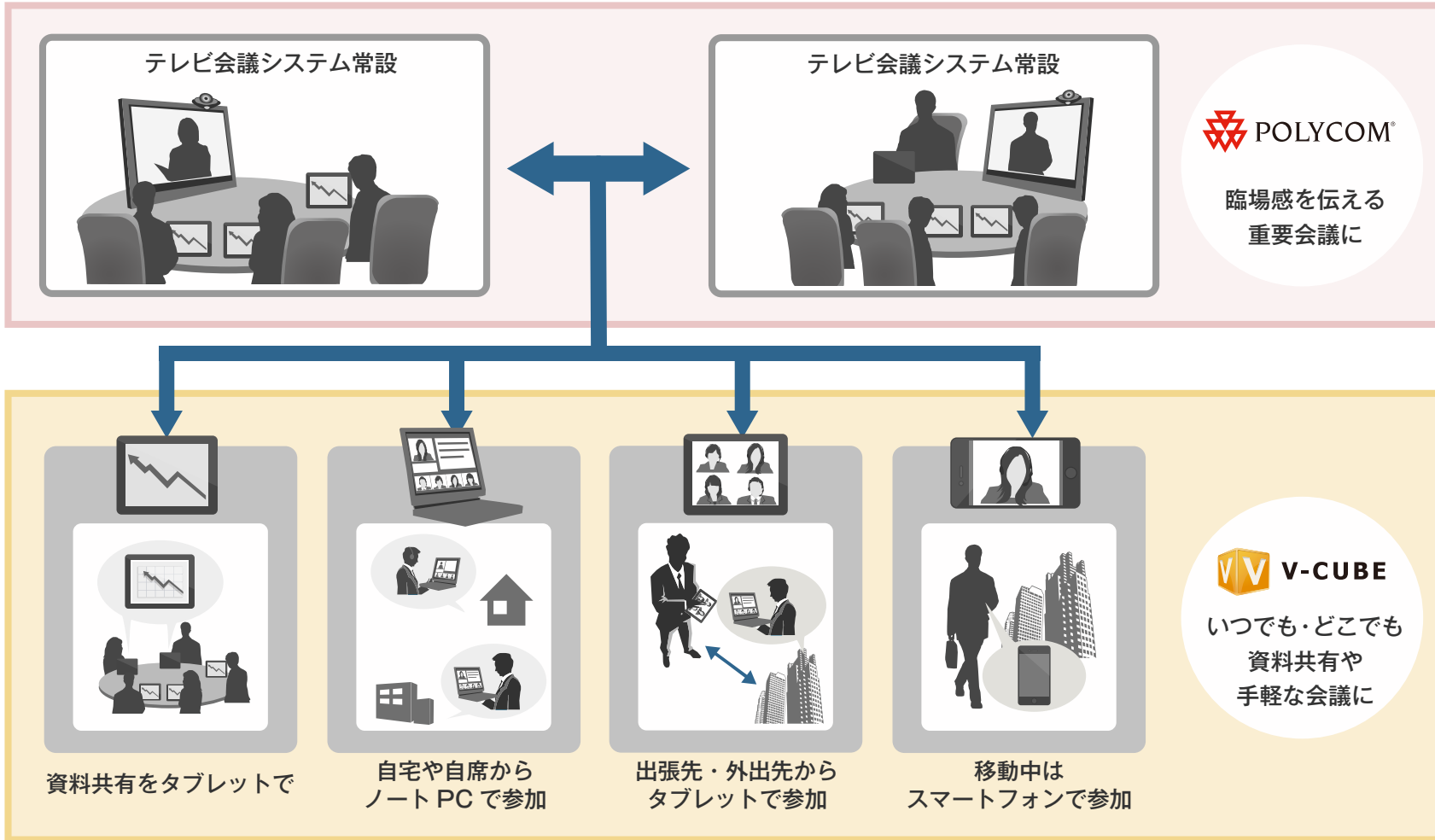


自席から参加
内蔵カメラ等も利用可



VV V-CUBE ミーティング

テレビ会議とウェブ会議の共存共栄



V-CUBE セミナー

インタフェースイメージ

講師から見た画面

受講者一覧 **配布資料のアップロード** **PC画面共有** **アンケート**

00:23:46 配信中です

セミナー講師

セミナー受講者

テキストチャット

ホワイトボード

3つの「不要」と3つの「可能」で、「いつでも」・「どこでも」、「だれでも」が使えるサービスへ。

不要 = いろいろない

- インストール
- 特別な設定
- アップデート

可能 = できる

- どんな機器も
- 世界中で利用
- カスタマイズ

ホワイトボード操作ボタン

VV V-CUBE セミナー



スタジオからの配信風景

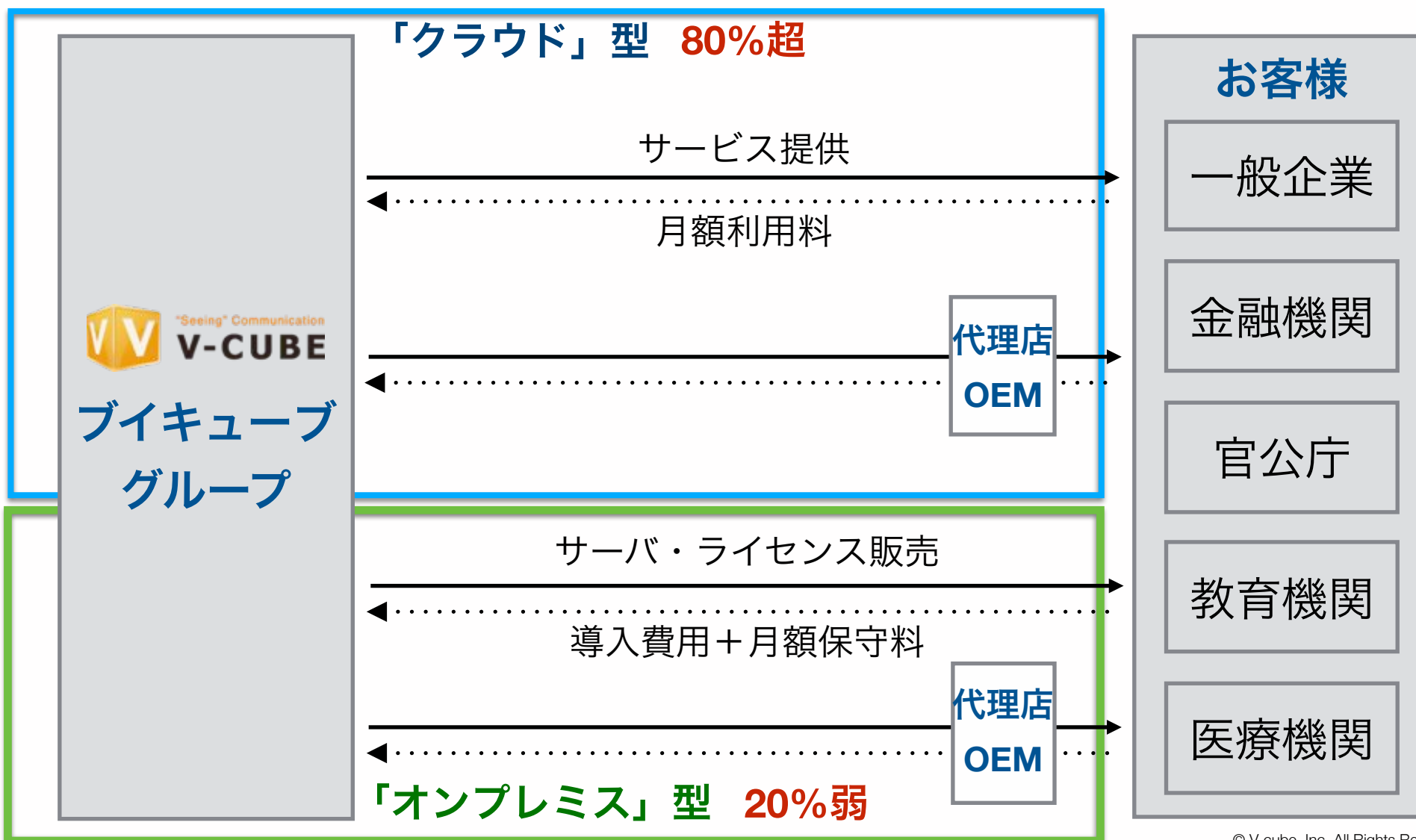


セミナー会場からの配信風景



2. 事業概要 - ビジネスモデル -

法人を対象とした、「クラウド」型を中心としたビジネス展開



事業概要 - ビジュアルコミュニケーションマーケット -

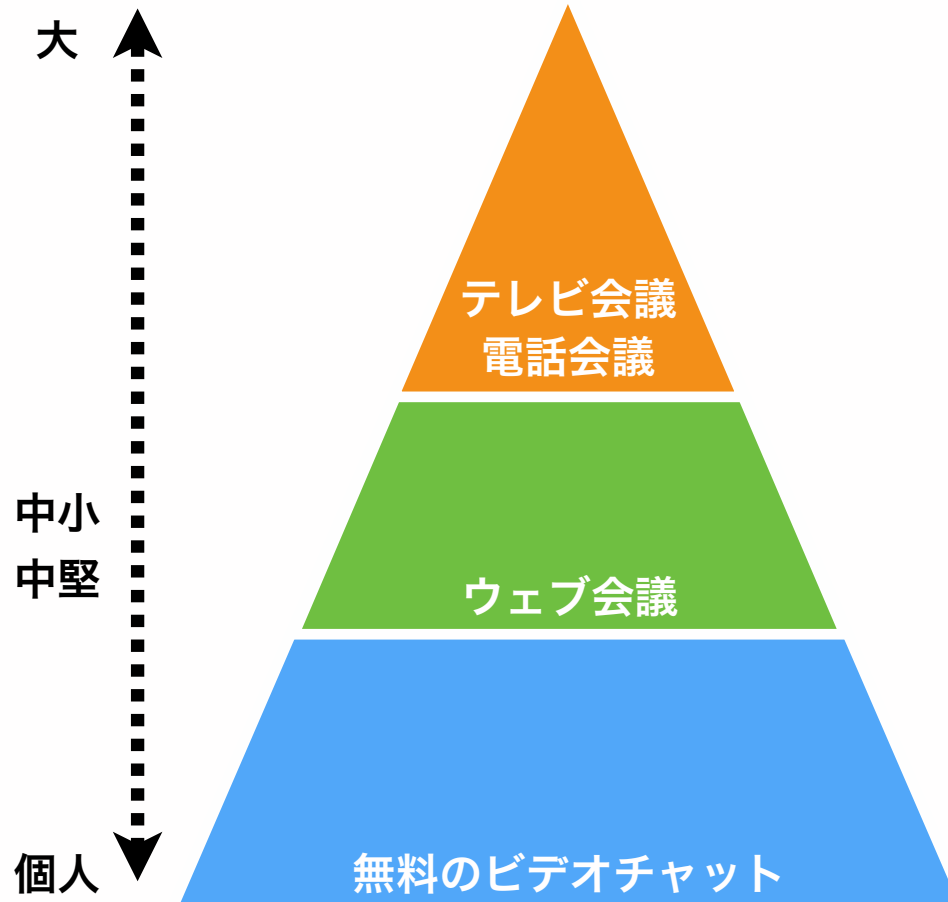
ウェブ会議だけではない幅広い市場

- ・ テレビ/ウェブ会議
- ・ オンラインセミナー
- ・ 営業支援（ウェブ相談）
- ・ 遠隔教育
- ・ 遠隔医療・診断（カウンセリング）
- ・ 映像配信
- ・ オンラインサポート
- ・ その他

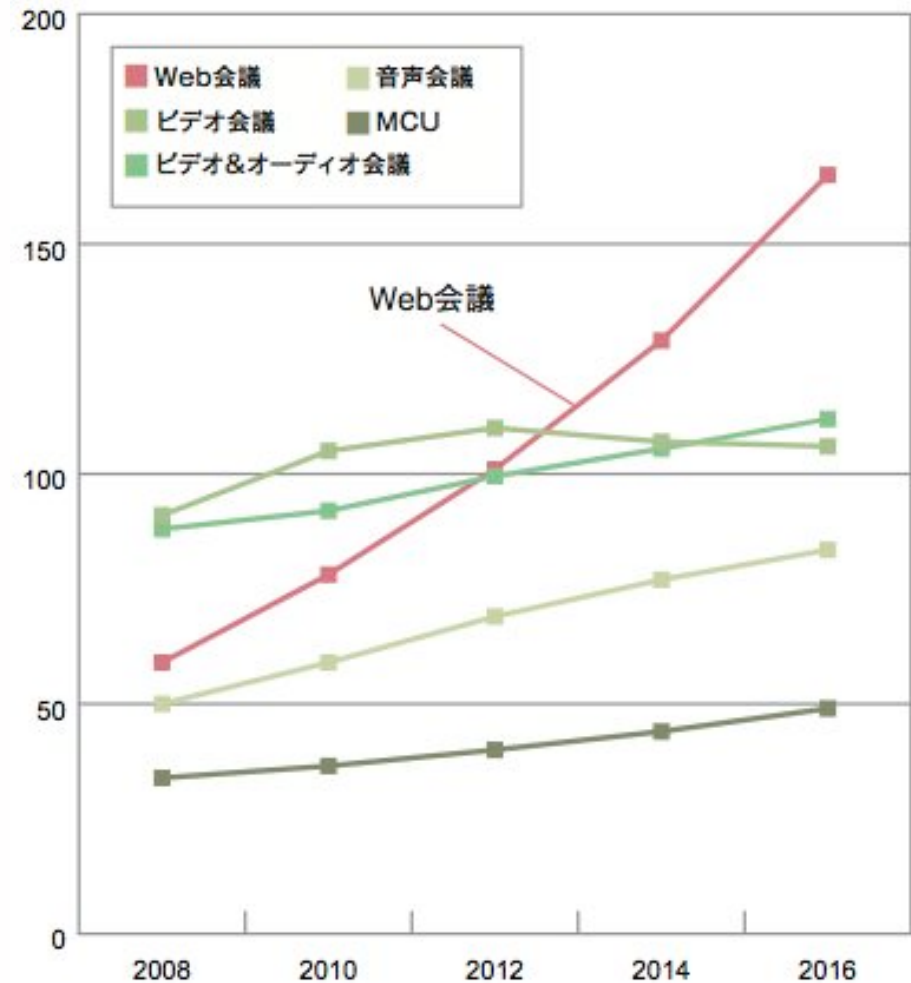


市場動向について

導入企業規模

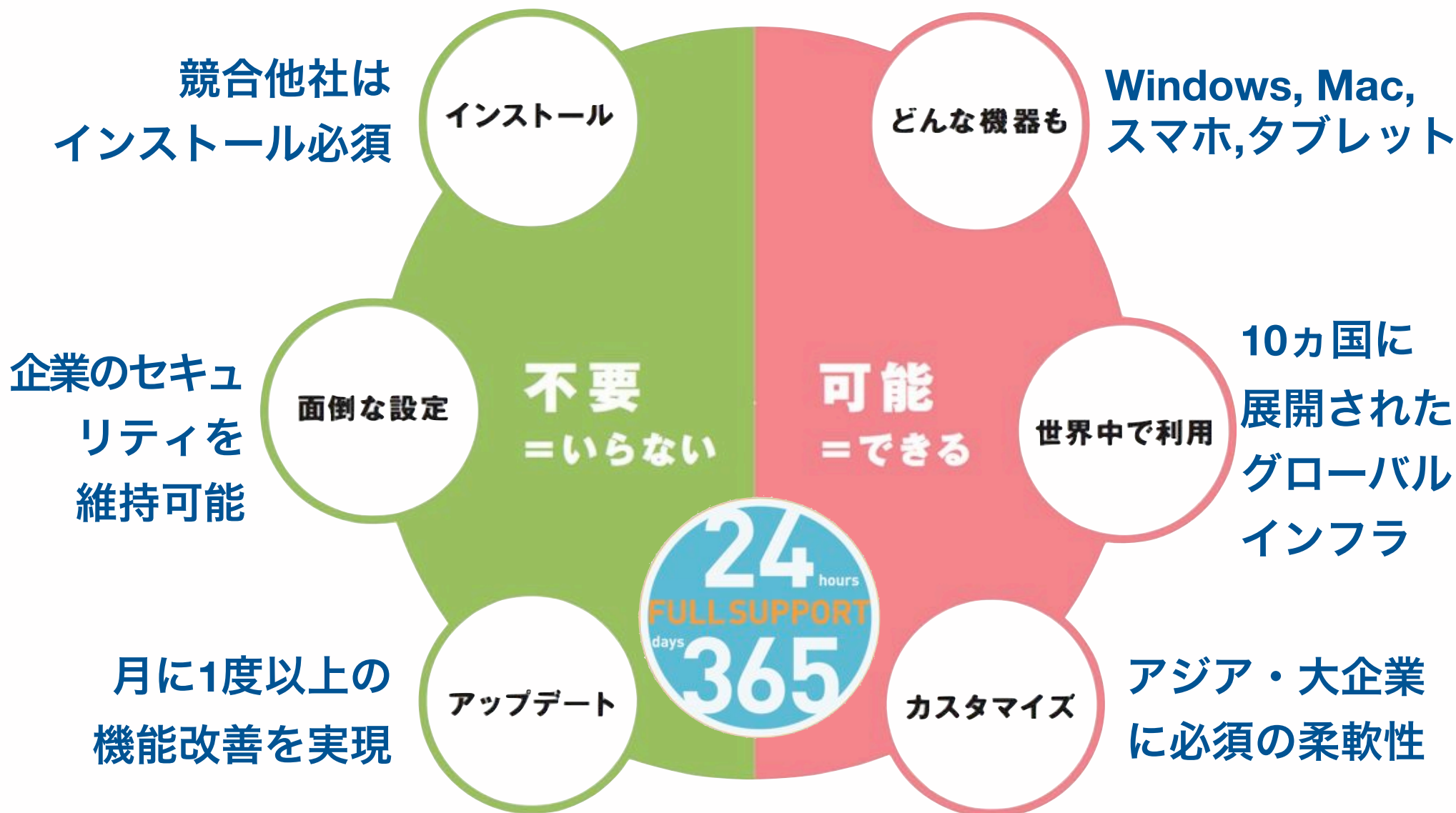


映像コミュニケーションの市場規模予測

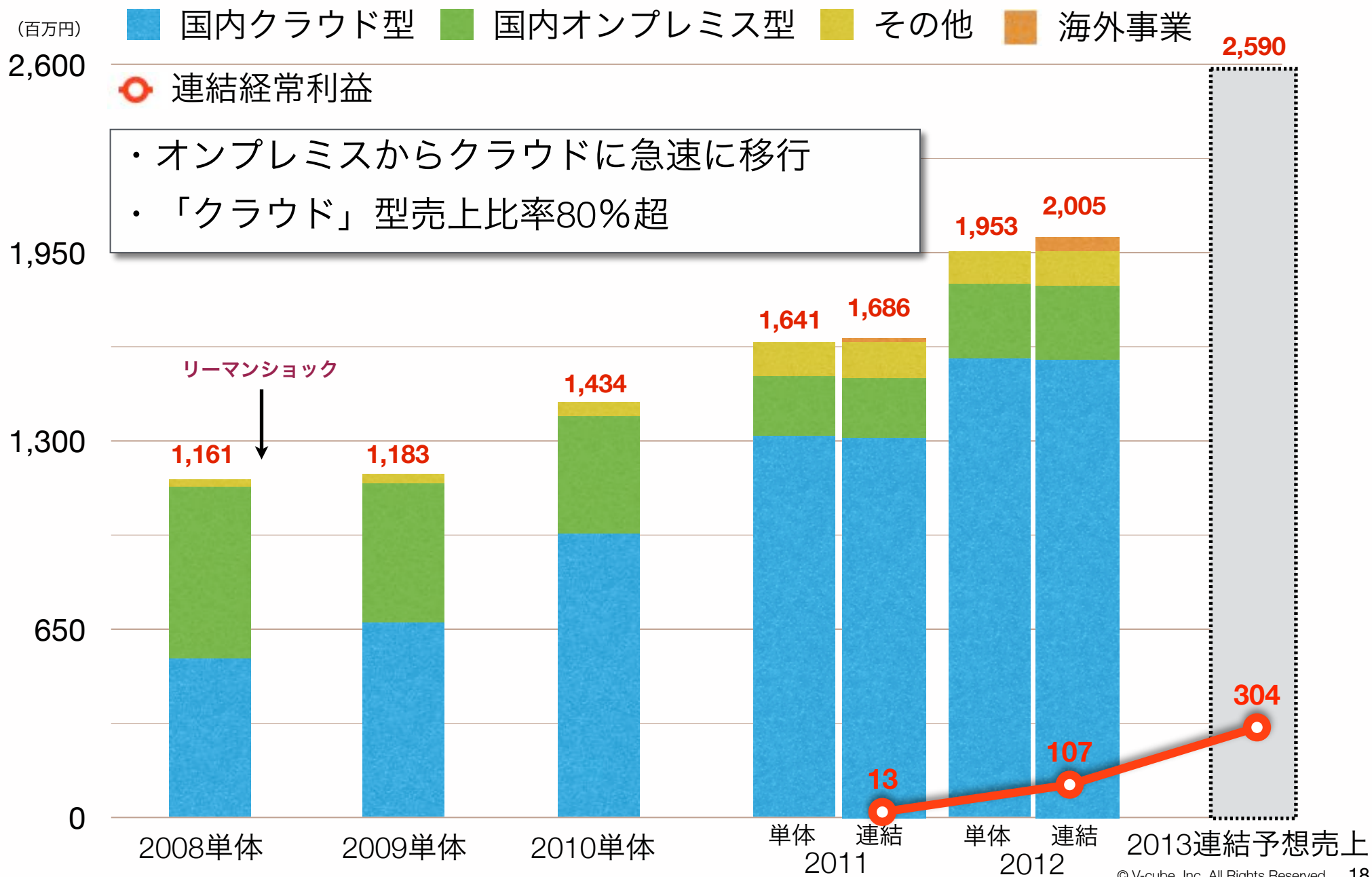


株式会社シード・プランニング「2013ビデオ&オーディオコミュニケーションの最新市場動向」

事業概要 - V-CUBEサービスの優位性 -



業績について - 売上高・経常利益推移



成長戦略

安定的な**積み上げビジネス**の加速

引き続き国内でのシェア拡大

OEM・パートナー展開を中心とした拡大

1対N対N型の**プラットフォームモデル**の展開

当社→当社のお客様→エンドユーザ（コンシューマ）へのサービスモデルの拡大

アジア・北米を中心とする**海外展開**の拡大

成長戦略 - 国内シェアの一層の拡大 -

OEM・パートナー展開を中心とした拡大（販売強化）

メーカー子会社の既存競合サービスへのOEM提供 等
100社以上の全国に広がる販売パートナーの更なる活性化支援

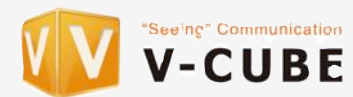
医療分野への提供

プラットフォームモデルの一例

エムスリー株式会社との資本業務提携による医療領域No1戦略の推進



- m3.comのメディア力
 - 約25万人の医師会員
 - 60万人超の医療従事者会員(医師会員を含む)
- 既存事業における製薬企業へのチャンネル
- 医療ヘルスケア領域での展開ノウハウ



- 日本市場シェアNo.1の
ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム
- 国内SaaSサービスとしては最大規模の運営実績
- 医療ヘルスケア領域での豊富な実績とノウハウ

成長戦略 - アジアを中心とする海外展開 -

展開国の拡大

未展開国への拠点展開・パートナー開拓の実施

営業リソースの投入

直販にて市場性の確認できているマレーシア、中国での営業リソースの大型投入による収益拡大

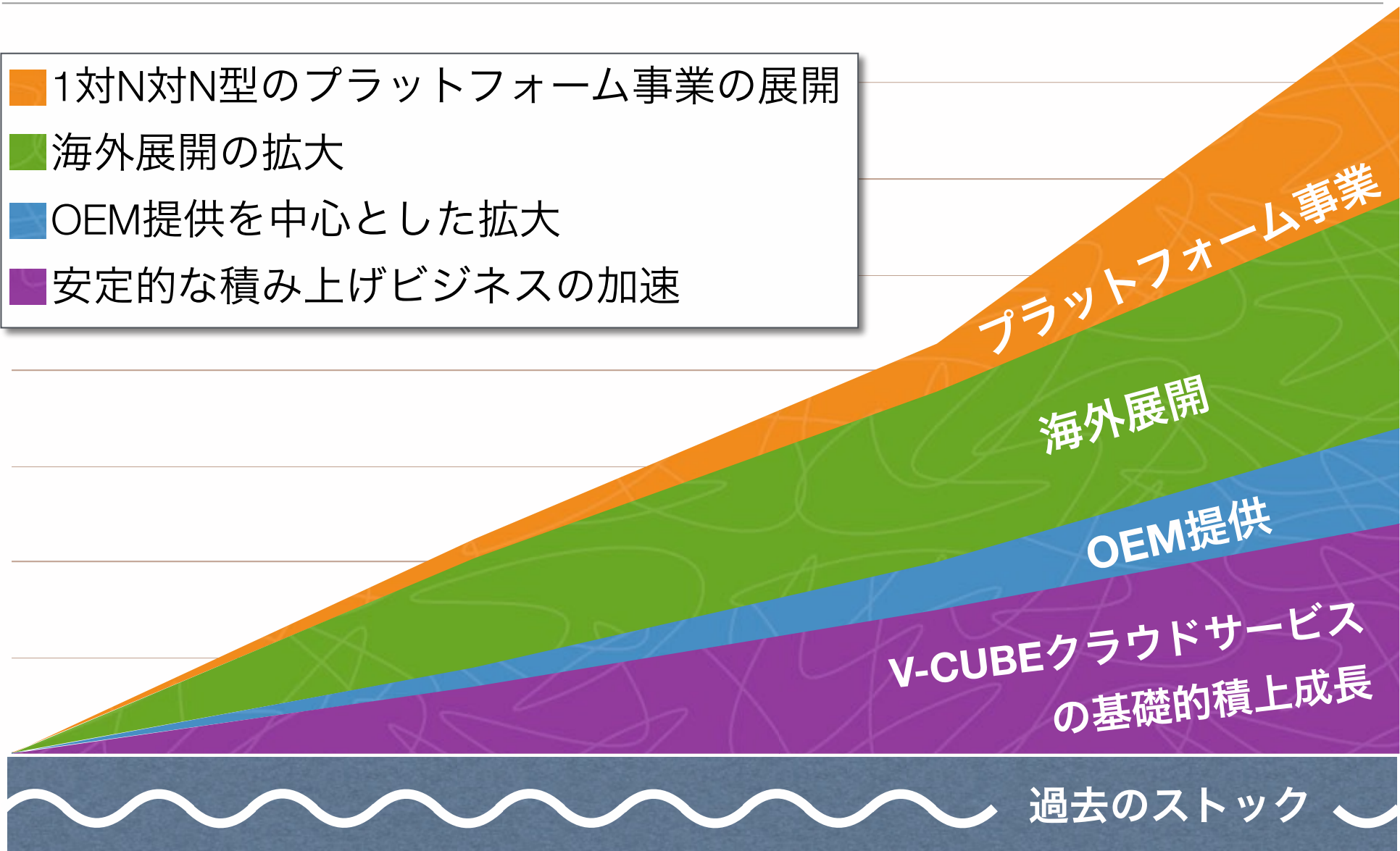
優良事例の横展開

- ・ 中国における自動車会社向け提供
- ・ タイ、中国における危機管理ソリューション
- ・ 途上国の大学における遠隔教育 etc...



成長戦略 - 将来イメージ -

- 1対N対N型のプラットフォーム事業の展開
- 海外展開の拡大
- OEM提供を中心とした拡大
- 安定的な積み上げビジネスの加速



2013

2014

2015

2016

アジアナンバーワンの ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム



見えるコミュニケーション

V-CUBE

ありがとうございました。

本資料の取り扱いについて

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述などは、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。

従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや確実性がありますことを、予めご了承ください。